

種目（外国語）

|  |  |
|--|--|
| <p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>  | <p>東京書籍（New Horizon Elementary English Course）</p>   |
| <p>1 教科の目標からの配慮</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞く活動で表現に慣れ親しみ、学習した表現を使ってペアやグループで話す活動を行い、読む・書く活動につながる構成で、外国語についての基礎的な技能を身に付けられるように配慮されている。</li> <li>・ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、主体的に考え、表現できるよう言語活動が設定されている。</li> <li>・ 自分や身近なことから、日本、世界とのつながり、SDGs に視野を広げ、他者や世界との関わりに着目できるよう工夫されている。</li> </ul>   |
| <p>2 児童の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘索性</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等</p>  | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 1 ページ1 時間、各単元が見開き 4 パート構成、計 8 時間の 8 単元構成で、標準時間内で学習ができるように配慮されている。</li> <li>(2) 音声に慣れ親しむ活動から、新しい単語や表現に気づき、コミュニケーション活動の中でそれらを活用することで身に付けられるよう工夫されている。</li> <li>(3) 見通しをもつ Our Goal、伝えたいことを考える Your Plan、会話や発表で気を付けたいことを考える Your Goal のスモールステップの単元構成で、主体的に学べるように配慮されている。</li> <li>(4) 5 年生は音声中心で、6 年生で徐々に読む活動、書く活動が導入されている。各単元、文字と音の関係の学習が 2 ページ分扱われており、音声から読み書きへ進めるように配慮されている。</li> <li>(5) A 4 判で理解を助ける鮮明な絵や写真、図が豊富に使用されている。フォントや配色に UD デザインが使用されている。</li> </ol>   |
| <p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 慣れ親しむ練習活動から、表現を考えて会話や発表を楽しむ言語活動を行う自然な流れで単元が構成されている。Over the Horizon は主体的に世界の文化を学び、考える工夫がされている。</li> <li>(2) 5 年は日本、6 年は世界をテーマに言語材料が配列され、既習事項を繰り返し学習することができる工夫がされている。</li> <li>(3) 言いたいことを考え言語材料を選択して伝え合ったり、グループで発表をしたりする協働的な学習で、知識及び技能や内容の定着、自己表現力の育成が図られるよう工夫されている。</li> <li>(4) 目的に応じて思考・判断して情報を整理し、考えを発信する活動が豊富に用意されている。</li> <li>(5) 各単元になぞり書き書体が使用されている。紙面にある日本と世界地図には、名所紹介を助ける工夫がされている。</li> <li>(6) 各単元には評価の 3 観点に即した目標とふり返りが、CAN-DO リストには 2 年分の目標が明示され、指導と評価の一体化が図れるように、また児童と共有し自己評価できるように工夫されている。</li> </ol> |
| <p>4 全体的な特色</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書に設けられた豊富な書き込みスペースは考え表現する工夫がされ、ワークシートがなくても児童の学びの足跡となる。</li> <li>・ 別冊 A 4 判の絵辞典は、巻末に単元別表現集と CAN-DO リストがあり、語彙も紙面に 700 語デジタル辞書に 300 語収録され、空欄 4 線に書き込みもでき自分だけの絵辞典となる。</li> </ul>  |

種目（外国語）

|  |   |
|--|---|
| <p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>  | <p>開隆堂出版（Junior Sunshine）</p>   |
| <p>1 教科の目標からの配慮</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音声中心の学習から段階的に文字の学習に取り組むことで、外国語についての基礎的な技能を身に付けられるよう配慮されている。</li> <li>・ コミュニケーションに大切なことを考える活動が設定されており、児童が目的や場面、状況などに応じて、工夫して表現できるよう配慮されている。</li> <li>・ 各単元で異文化情報が扱われており、外国の文化や生活を理解し尊重する心が育つよう配慮されている。</li> </ul>   |
| <p>2 児童の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘索性</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等</p>  | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 児童にとって身近な話題を適切な時数で扱い、学習者が負担なく学習に取り組めるよう配慮されている。</li> <li>(2) 平易なインプットから無理なくアウトプットにつながる言語活動が設定され、聞くこと・話すことを中心に、段階的に読むこと・書くことを学んでいくことができる単元構成がなされている。</li> <li>(3) カテゴリーゲームやポインティングゲームなどゲーム活動を取り入れながら学習意欲を喚起し、対話的な活動へつなげている。</li> <li>(4) 各単元が、聞くことから始まり、簡単な発話によるやり取りを経て、発表・やり取りへ進み、基本的な表現の定着を図るコミュニケーション活動を段階的に行うことができるよう、配慮されている。</li> <li>(5) A4判で、写真や図が鮮明であり、児童が視覚的・具体的に学習の見通しをもつことができるよう、配慮されている。</li> </ol>  |
| <p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) クラス内での自己紹介、学校や地域、国内、国外へと学年や単元が進むにつれて視点が広がっていくよう、各 Lesson の題材内容が配列されている。</li> <li>(2) 児童にとって身近な語彙・表現を中心に言語材料が配列され、獲得した知識及び技能を実際のコミュニケーションの中で繰り返し使用し、定着を促すことができるよう配慮されている。</li> <li>(3) 児童が自身の興味・関心や経験などを発信する具体的な言語活動を通して、友と交流をしながら、基礎的な英語表現に触れていくことができるように配慮されている。</li> <li>(4) コミュニケーションを通して言語の意味や働きを体験的に理解できるよう配慮されている。</li> <li>(5) 発表のやり方を示したイラスト、吹き出しなど、言語活動を行う際、単元のねらいが達成できるように工夫されている。</li> <li>(6) 巻末にある CAN-DO チェックでは、3観点と対応した振り返りができるように工夫されている。</li> </ol> |
| <p>4 全体的な特色</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語を使いながら学べるよう、実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動が充実している。</li> <li>・ 別冊の絵辞典は、カテゴリー別に語句をまとめ、絵を手がかりに、「知りたい」「言いたい」単語をすぐ探し出せるようになっている。6年生版では語彙が増強されている。</li> </ul>  |

種目（外国語）

| <div style="text-align: right;">発行者名</div><br>採択基準   | <div style="text-align: center;">三省堂（CROWN Jr.）</div>   |
|--|---|
| 1 教科の目標からの配慮   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• Hop、Step、Jump で構成され、段階的に自らの目標を設定し見通しをもって学習できるように、構成されている。</li> <li>• 日常の児童の活動に関連した題材があり、興味を喚起しながら、教科等横断的な学習を進めることができるように工夫されている。</li> <li>• 振り返り表（CAN-DO チェック）が巻末にあり、3観点と対応した自己評価ができるようになっていて、児童が見通しをもって主体的に学べる工夫がされている。</li> </ul>  |
| 2 児童の学習活動への配慮<br>○内容の程度<br>○学習活動への誘意性<br><br>〔 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等 〕  | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 言語材料は、アウトプットの前に十分なインプットができ、平易なものから段階的に配列されるなど、分量に配慮がある。</li> <li>(2) 聞くことから話すことへ、また読むことから書くことへ段階を踏んで十分に練習をしてから移行できるよう工夫されている。</li> <li>(3) コミュニケーションの目的や場面、状況を明確にした言語活動が豊富で、相手と主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことができるように配慮されている。</li> <li>(4) 1時間の授業の中で、見通しをもったり、視覚的に気付きを促す工夫がされており、児童が意欲をもち活動に取り組める工夫がされている</li> <li>(5) A4判で、挿絵や写真を見るだけで、単語の意味や学習内容を理解する助けとなっている。ユニバーサルデザインに配慮したフォントが使用されている。</li> </ol>  |
| 3 学習指導への配慮<br>○単元・題材の配列<br>○内容の扱い<br><br>〔 「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価 〕 | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 目次に、単元の目標と授業のゴールが明示されている。いくつかの単元ごとに設けられている「JUMP」で、既習内容を復習しながら表現活動をする構成となっている。</li> <li>(2) 聞くことを通して新出表現に触れて確認後、話す活動で口頭練習、続いて読む活動や書く活動につなげることで、学習した表現を活用できるよう工夫されている。</li> <li>(3) 対話で使う英語の表現を、児童が選択して、考えながら学習することで、主体的に活動できるように配慮されている。</li> <li>(4) 吹き出しを使って既習表現が例示され、言語の使用場面や言語の働きが明示されており、コミュニケーション活動に取り組みやすいよう配慮されている。</li> <li>(5) 写真やイラストは英語の意味を推測できるように関連付けられていて、活動の見通しがもちやすいよう工夫されている。</li> <li>(6) 各観点についての「振り返り」を記入する欄がユニットの最後にあり、児童の記述から評価が行えるよう工夫されている。</li> </ol> |
| 4 全体的な特色   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 各学年が3つのUnitで構成されていて、それぞれに言語活動の目標が設定されている。ユニットの中で小さなゴールを達成しながら語句や表現を身に付けていくような構成である。</li> <li>• 別冊絵辞典「My Dictionary」には、場面に応じて単語が整理されている。各学年のCAN-DOリストが記載されている。</li> </ul>   |

種目（外国語）

| 発行者名<br>採択基準   | 教育出版（ONE WORLD Smiles）   |
|--|--|
| 1 教科の目標からの配慮   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞くこと・話すことを中心に、段階的に読むこと・書くことへ移行することで基礎的な技能を身に付けられるように配慮されている。</li> <li>・ 単元末にある3観点に対応した振り返り表を活用して、児童が見通しをもち、主体的に学習に臨めるよう工夫がされている。</li> <li>・ 学校生活に合った活動やテーマがあり、他の教科・領域の学習とつながりのある要素を英語学習に生かせるよう工夫されている。</li> </ul>   |
| 2 児童の学習活動への配慮<br>○内容の程度<br>○学習活動への誘意性<br><br>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等  | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 外国語活動から円滑に移行できるよう、文字や説明を精選し、学習者が負担なく学習に取り組めるよう配慮されている。</li> <li>(2) 平易なインプットから無理なくアウトプットにつながる言語活動が設定され、聞くこと・話すことを中心に、段階的に読むこと・書くことを学んでいくことができる単元構成がなされている。</li> <li>(3) 単元のテーマについて、自分の考えを整理したり、友と考えを交流する中で自分の考えを深めたりしていく Think コーナーがあり、対話的な学習を促す工夫がなされている。</li> <li>(4) 各単元が、聞くことから始まり、簡単な発話によるやり取りを経て、発表へ進み、基本的な表現の定着を図るコミュニケーション活動を段階的に行うことができるよう配慮されている。</li> <li>(5) 1 ページに概ね一つの活動が設定されている。写真や表が鮮明で、視覚的・具体的に学習の見通しをもてるよう配慮されている。</li> </ol>                           |
| 3 学習指導への配慮<br>○単元・題材の配列<br>○内容の扱い<br><br>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価 | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) クラス内での自己紹介、学校や地域、国内、国外へと学年や単元が進むにつれて視点が広がっていくよう、各 Lesson の題材内容が配列されている。</li> <li>(2) 児童にとって身近な語彙・表現を中心に言語材料が配列され、獲得した知識及び技能を実際のコミュニケーションの中で繰り返し使用し、定着を促すことができるよう配慮されている。</li> <li>(3) 児童が自身の興味・関心や経験などを発信する言語活動を通して、英語表現に触れていくことができるように配慮されている。</li> <li>(4) 特有の表現が使われる場面が設定され、言語の意味や働きを体験的に理解できるよう配慮されている。</li> <li>(5) 絵カード、自己表現のためのワークシート、活動用シールなど、言語活動を行う際、表現意欲を高めるよう工夫されている。</li> <li>(6) 各単元末にある Review や評価の3観点と対応した振り返り表をもとに、学習内容や評価の観点が明確になるよう工夫されている。</li> </ol> |
| 4 全体的な特色   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話す内容やコミュニケーションについての気付きを促し深めるコーナーが設けられており、互いを尊重し合いながら、よりよい関わり合いを意識した英語学習ができるように配慮されている。</li> <li>・ 6年生の後半から始まる文構造への気付きを促す活動や小学校の学習のまとめとして取り組む活動が位置付けられている。</li> </ul>  |

種目（外国語）

|   |  |
|---|--|
| <p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>   | <p>光村図書出版（Here We Go!）</p>   |
| <p>1 教科の目標からの配慮</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞いたり話したりする音声中心の学習から、文字の学習に段階的に取り組むことで、外国語についての基礎的な技能を身に付けられるよう工夫されている。</li> <li>・ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて主体的に表現できるよう工夫されている活動が多く設定されている。</li> <li>・ 自文化や異文化について扱う単元があり、自国や他国の文化、生活を理解し、尊重する心が育つよう工夫されている。</li> </ul>   |
| <p>2 児童の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等</p> </div>  | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 内容が発達段階に即していて、児童が主体的に学習に取り組むことができるように配慮されており、分量に配慮がある。</li> <li>(2) 各 Unit の Step では「ストーリー」を通して学習する表現に気付くことから始まり、インプット中心の活動からアウトプットする活動へと、スモールステップを踏んだ活動が組まれている。</li> <li>(3) 聞く活動では場面設定が、話す活動ではコミュニケーションの目的が、明確に示されており、主体的に対話しようとする意欲を高める工夫がされている。</li> <li>(4) 十分に聞いたり話したりして慣れ親しんでから、文字、単語、語句、文を読んだり書いたりする活動へと段階を踏んで学ぶことができるように配慮されている。</li> <li>(5) 写真やイラストが多く使われていて、活動の内容を推測しやすく言語活動が具体的にイメージできる。</li> </ol>  |
| <p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> </div> | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習のテーマが示され、5 学年では自分、他者、地域、6 学年では日本、世界、将来というように視点が広がっていくテーマで構成されている。</li> <li>(2) 平易なものから段階的に配列されている。次学年や中学校の目標も併記されていて、見通しをもって学習しやすくなっている。</li> <li>(3) 各 Unit で、基礎的な知識及び技能の習得を先にして、それを活用しながら自分の身近なことについて、習熟の度合いに応じて主体的に表現する言語活動が配置されている。</li> <li>(4) 聞く活動では場面設定が、話す活動ではコミュニケーションの目的が明確で、言語の働きに気付き、理解しやすいよう工夫されている。</li> <li>(5) 写真やイラストから活動の内容が推測しやすく、聞き取る活動では場面をはっきり見分けられる写真が多く用いられている。</li> <li>(6) 巻頭に、「○年生でできるようになること」が明記され、単元終了ごとにチェックできる工夫がされ、達成度を確認できる。</li> </ol> |
| <p>4 全体的な特色</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紙面に発話例が記されており、それを手がかりにすることもできるが、活動に必要なすべてのセリフをあえて示していないことで、児童が主体的に考えることができる工夫がある。</li> <li>・ 2 年間に渡って「ストーリー」が展開され、児童がキャラクターに興味をもって言語活動ができる工夫がされている。</li> </ul>  |

種目（外国語）

| <p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>   | <p style="text-align: center;">啓林館（Blue Sky elementary）</p>   |
|---|---|
| <p>1 教科の目標からの配慮</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 音声中心の学習から段階的に文字の学習に取り組むことで、外国語についての基礎的な技能を身に付けられるよう配慮されている。</li> <li>• どのような工夫をして伝えればよいのかを考える活動が設定されており、児童がコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、工夫して表現できるよう配慮されている。</li> <li>• 各単元で異文化情報が扱われており、外国の文化や生活を理解し、尊重する心が育つよう配慮されている。</li> </ul>   |
| <p>2 児童の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘索性</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等</p>   | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 年間配当時数が余裕をもって設定されている。必要に応じて、練習活動や調べ学習などの個に応じた活動を取り入れられるように配慮されている。</li> <li>(2) 児童が、自分のことについて話す活動が設定されており、練習活動に偏った指導にならないよう配慮がされている。</li> <li>(3) コミュニケーションで大切なことを考えられる映像や活動が扱われ、主体的、対話的な学習を促す工夫がなされている。</li> <li>(4) 文字と音の関係が各単元で扱われており、児童が慣れ親しんだ音声を基に読んだり書いたりする学習を進めていくことができるように配慮されている。</li> <li>(5) A4判で、各単元で行う活動の位置が紙面上で固定化されていることで、全ての児童が迷わずに活動することができるように配慮されている。</li> </ol>  |
| <p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 言葉を使う場面を把握し、聞いたり使ったりして慣れ親しみ、話す活動を行う、そして読む、書く活動を行う単元構成であり、5領域の力をバランスよく育成する工夫がされている。</li> <li>(2) 自分のこと、過去のことなど、似た表現を使う単元がまとめられており、言語材料の配列や関連付けが意識されている。</li> <li>(3) ペアで話す活動が各単元で扱われており、自分が伝えたい内容や言葉を選び言語活動ができるように配慮されている。</li> <li>(4) 自分について伝え合う言語活動が多く取り入れられ、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて伝え合う力を養えるよう配慮されている。</li> <li>(5) まとめの活動では活動中の写真や発表の資料などが掲載され、活動のイメージがもちやすくなっており、単元のねらいとの関連が密接である。</li> <li>(6) 巻末の Can-Do List は評価規準につながるよう設定されており、まとめや評価の観点が明確になるよう工夫されている。</li> </ol> |
| <p>4 全体的な特色</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 思考力、判断力、表現力等を育成するために、どのような工夫をして伝えたらよいのかを考える活動が設定されている。</li> <li>• ゲーム要素のある活動ではなく、自分について話す活動が設定されており、児童がコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて表現できるよう工夫されている。</li> </ul>  |